

[普及事項]

新技術名： 比内地鶏生産における出荷成績向上技術（平成 25～29 年）

研究機関名 畜産試験場 比内地鶏研究部

担当者 青谷 大希

[要約]

比内地鶏生産における出荷成績（出荷率・出荷重量）を向上させるための技術として、飼育ハウス内の夜間の点灯管理、および飼育スケールの調整等の有効性を明らかにした。上述の成果に加え、行動学的調査により得られた知見や、暑熱期の管理、疾病対策等についてまとめた「比内地鶏生産における出荷成績改善マニュアル」を作成した。

[普及対象範囲]

県内比内地鶏生産者

[ねらい]

比内地鶏生産において収益性を向上させるためには、ロット当たりの出荷成績、すなわち出荷率（出荷羽数/導入羽数）および出荷重量を高めることが必要である。また、出荷率を下げる要因としては、鶏が外的刺激に過剰反応してハウスの隅など一か所に密集し、熱や呼吸不全により死亡する、圧死事故の発生が最も大きなものであることがわかっている。そこで、生産者に対する現地調査および比内地鶏の行動特性に着目した各種調査（モデル実験、行動観察、飼育試験）を行い、出荷成績の向上に有効な飼養管理法について検討した。

[技術の内容・特徴]

- 1 夜間におけるハウスの点灯管理は、出荷重量の向上に有効である（図 1）。
- 2 中雛での導入や移動直後の圧死は飼育規模が 300 羽を超えると発生しやすくなるため、間仕切りにより 200～250 羽単位にすることで予防できる。間仕切りは高さ 50 cm 程度の簡素なものでも効果がある（図 2）
- 3 ^{えさなら}餌均しを頻繁に（1 日 2 回以上）行うことで、作業への馴れを促進することができるため、圧死事故の予防に有効である。また、飼料摂取も促進されるため、出荷重量の向上にも効果がある（図 3）。
- 4 騒音による鶏の密集は 80 デシベル程度（車のクラクションに相当）の日常的に発生しうる音量でも起こることが確認された一方、騒音の発生前に鶏に声をかけるなど注意を引くことで過剰な反応を抑制することができる。

[成果の活用上の留意点]

- 1 鶏舎内の間仕切りについて、床から天井まで完全に仕切る場合は、秋田県比内地鶏ブランド認証制度に規定されている飼育密度 5 羽/m² 以下を順守すること。

[具体的なデータ等]

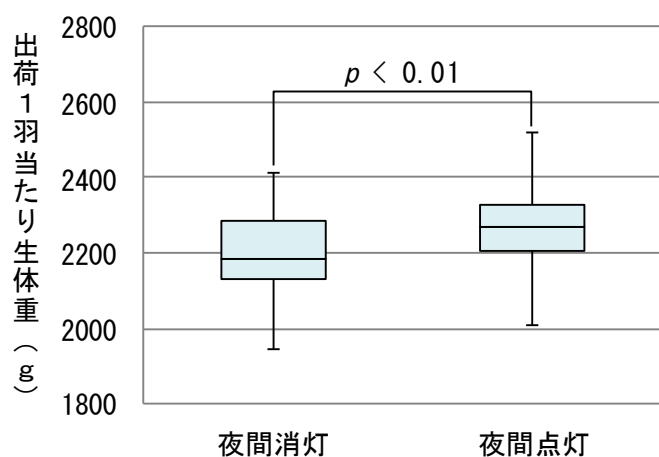


図 1 夜間の点灯管理と出荷1羽当たり生体重との関連



図 2 合板で作成した簡易的な間仕切り（上方枠線部分）
3 × 6 尺の合板を分割して作成したもので、高さは約 45 cm



図 3 移動2日後（左）および16日後（右）の作業者に対する鶏の反応
餌と作業者の関係を鶏に覚えさせることで、作業者に対する忌避反応を効果的に低減させることができる

[発表論文等]

高橋ら(2016) 秋田県畜産試験場研究報告 第31号
比内地鶏生産における出荷成績改善マニュアル(2018)